



JICAの青年海外協力
隊員としてヨルダンに来て
1年がたった。首都アンマ
ンから車で約40分のマダバ
という都市の教育局に所属
し、公立小学校で活動をし
ている。

新型コロナウイルス禍の



ヨルダン
(2022年から派遣)
岡崎友里さん(32)

マダバ在住
(山口市出身)

「ないなら創る」今後も

授業をしてみることにし
た。

日本の「けんけんぱ」を
ヒントに、ロープで作った
輪を並べて日本の音楽に合

わせて遊ぶに取り組ん
だ。紙コップとストローを
使ってマラカスのような楽
器を作り、皆で歌を歌った
こともある。

た。体育でボールやコーン
標識がない時は、紙袋やペ
ットボトルで代用品を作っ
た。

いずれも、この国の教員
への提案であり、普及を目
的とした協働作業の意味合
いもあった。

この国での1年間の出来
事は私にとって貴重な体験
となった。「ないなら創り
出す」をモットーに、子ど
もたちの豊かな経験につな
がる働きかけを今後も続け
ていきたい。

影響もあり、最初の半年間
は前年度の補習授業だっ
た。とは言え、教科書や問
題集を使った座学が中心
で、音楽や図工、体育の授
業はほとんどなかった。そ
のため、低学年の児童向け
に音楽の要素を取り入れた



「けんけんぱ」をヒントにした遊びを楽しむ
子ども。右端が筆者

図工では七
夕飾りを作る
ように、イス
ラム教徒の一
大行事である
「ラマダン(断
食月)」で道
端や各家庭に
飾られるラン
タンの飾り
を、カラフル
な紙を使って
皆で手作りし
た。

ただ、そこに言葉の壁が
立ちはだかった。自分の思
い、相手の言いたいことが
伝わらないことが度々起
こった。そんな中でも励ま
し、支えてくれる人に出会
えたことでその壁は徐々に
取り除け、信頼関係も生ま
れるようになった。私の名
前を呼んで「今日は何をす
るの?」と目を輝かせる子
どもや、積極的に手伝いに
加わってくれる教員が増え
た。